

2025 年 12 月 14 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒93 番（旧 150 番）（KH 姉）

『家なき旅人』

聖書⇒ルカによる福音書 1 章 46~55 節（MM 姉）

『そこで、マリアは言った。

「わたしの魂は主をあがめ、

わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

身分の低い、この主のはしためにも／

目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世の人も／

わたしを幸いな者と言うでしょう、

力ある方が、／

わたしに偉大なことをなさいましたから。

その御名は尊く、

その憐れみは代々に限りなく、／

主を畏れる者に及びます。

主はその腕で力を振るい、／

思い上がる者を打ち散らし、

権力ある者をその座から引き降ろし、／

身分の低い者を高く上げ、

飢えた人を良い物で満たし、／

富める者を空腹のまま追い返されます。

その僕イスラエルを受け入れて、／

憐れみをお忘れになりません、

わたしたちの先祖におっしゃったとおり、／

アブラハムとその子孫に対してとこしえに。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒175 番（旧 247 番）

『わが心は』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 3~7、26~30 節（KT 姉）

『肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされるためでした。肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えます。肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。なぜなら、肉の思いに従う者は、神に敵対しており、神の律法に従っていないからです。従いえないのです。』

同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多く兄弟の中で長子となられるためです。神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。』

（祈り）

聖書⇒ローマの信徒への手紙 12 章 1 節（KH 兄）

『こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒241 番

『主の御稜威と』

聖書⇒詩編 23 編（NH 兄）

『主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ／

憩いの水のほとりに伴い

魂を生き返らせてくださる。
主は御名にふさわしく／
わたしを正しい道に導かれる。
死の陰の谷を行くときも／
わたしは災いを恐れない。
あなたがわたしと共にいてくださる。
あなたの鞭、あなたの杖／
それがわたしを力づける。
わたしを苦しめる者を前にしても／
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。
わたしの頭に香油を注ぎ／
わたしの杯を溢れさせてくださる。
命のある限り／
恵みと慈しみはいつもわたしを追う。
主の家にわたしは帰り／
生涯、そこにとどまるであろう。』

礼拝讃美歌⇒329 番（旧 90A 番）

『主はわが飼い主』

（祈り）

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節（EK 兄）

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

（式）

礼拝讃美歌⇒149 番（旧 220 番）

『主イエスを覚えんため』

《建徳》

聖書⇒ローマの信徒への手紙 7 章 18~19, 24a 節（CN 兄）

『わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。』

わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 6 章 14b 節

『この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 2 章 19~20b 節

『わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 6 章 6, 7, 8 節

『わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。』

死んだ者は、罪から解放されています。』

わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 3 章 9 節

『神から生まれた人は皆、罪を犯しません。神の種がこの人の内にいつもあるからです。』

この人は神から生まれたので、罪を犯すことができません。』

聖書⇒マタイによる福音書 2 章 1~12 節 (KH 兄)

『イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、／
お前はユダの指導者たちの中で／
決していちばん小さいものではない。
お前から指導者が現れ、／

わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。』

礼拝讃美歌⇒41 番 (旧 28 番) (KH 兄)

『讃えの歌こそ』

《建徳要旨》